

權田直助 （直助） 國學者、醫家、神官。文化六年一月十三日武藏國入  
間郡毛呂本郷生まれ、明治二十年六月八日歿（一八九一—一八七〇）。初名を常。

號を越谷、源直助、白髮童子、菊田積徳。幕府醫官野間廣春院に漢方

醫學を、史積良辨（史積良辨）に漢醫學を學び、諸郷にて開業。のち平田篤胤の門に

入りて國學、神道を修む。文久二年醫學を門海軍の範として、上洛して

國事の本并。慶應二年江戸薩摩藩邸若林隊幹部となる。維新後、監察

可知事、大學中博士、皇漢醫道御用掛と歴任。明治四年國事犯の嫌疑

を受け、加賀の前田家の幽閉せられた。六年相模大山の阿夫利神社祠

官に任じ、爾後神道界の重鎮。最晩、皇世講究所（學學正）の學部長

に補せられた。出講するところなく病歿。井上頼國はその高弟。

著書に『皇漢醫道活則』（明治二年秋跋、塾藏版）、『詞の遺傳鏡（詞の遺傳鏡）』  
（詞の遺傳鏡）、（詞の遺傳鏡）

『教讀』（内題「（體言）實證鏡解」明治八年十一月神皇舎藏版、立石室吉

田製本）、『講學の在』（上・明治一十七年二月九日、下・四月二十

八日近藤活版所）『續中文籍集覽』（（增補）『増補國文の讀法』）井上頼國・

逸見沖の『歌壇雜記』上、明治二十八年七月二十日近藤活版所）、『各

處各書讀稿』（井上頼國・逸見沖二氏編、明治二十一年七月十日近藤活

版所）、『漢文の讀列』（井上頼國・逸見沖二氏校訂、明治二十七年

四月二十日近藤活版所）、『權田直助集』（神崎田郎校訂・編、昭和

十九年十一月五日地主社・國民社創刊事務所）『國學大系』（等。また、

『皇漢醫道活則』の『手向の倭文鑑』（内海政雄編、明治二十一年十一月）



十五の翁注長胤判（びんごの）。